

実施学年	6年	実施教科 (科目)	社会科	実施日	H24. 12. 7
単元名	日本の歴史 「長く続いた戦争と人々の暮らし」				
本時の内容 (項目)	世界文化遺産の原爆ドーム				
本時の目標	被爆前後の原爆ドームの写真や、原子爆弾投下後の広島町の写真から戦争の規模の大きさについて考える活動を通して、戦時中の様子や人々の暮らしについて興味をもつことができる。				
授業場所	6年2組教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他 ()		ICTの主な 活用者	教師・生徒	
活用するICT機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・ 予想される効果	社会科の導入では、具体物や視覚資料を活用している。本単元においては、原子爆弾が投下される前と投下された後の写真を見比べ、原子爆弾の威力の大きさや凄惨さを感じさせるようにする。投下前と投下後の変化がはっきりと分かることで、子どもたちが感じる印象も強く、終戦間際の日本の状況について関心をもつことができる。				
児童生徒の情報 活用能力を育て る指導場面・指 導内容	原子爆弾の投下前後の写真を見比べ、写真を見て分かることや、変化したことについて学級全体で交流をする。その際、どこの部分を示しているのか、画面を指し示しながら話すようさせ、全員に資料のどの部分について説明しているかが分かるようにする。				
利用するコンテ ンツ名・サイト 等	広島市ホームページ「原爆ドーム」				
参考にしたサイ ト・文献 等	広島市ホームページ「原爆ドーム」				
事前の準備	電子黒板で、原爆ドームの画像が表示されるようにしておく。また、投下前と投下後をそれぞれ一枚ずつ示した画像と、投下前後を同時に示した画像の3種類を用意しておく。				

<p>指導計画（授業の展開）</p>	<p><導入> ○原子爆弾が投下される前と投下された後の写真を見て、違いを探し、交流する。 ・町はがれきだらけで、建物はほとんどない状態。一面が焼け野原になっている。 <展開> 課題：戦争はどのようにして終わったのだろうか。 ○ひめゆり隊の方の手記から終戦間際の人々の様子を考える。 ・軍隊の人だけでなく、一般の人でも戦争の被害を受けている。 ・殺されたり自決したりして、多くの命が失われた。 ○教科書の文章から終戦までの流れをおさえる。 ・8月6日に広島に、8月9日に長崎に原子爆弾が投下された。 ・8月15日に、玉音放送によって終戦が知らされた。 ○日本だけでなく、アジアの人々も大きな被害を受けたことをおさえる。 ・アジアでもたくさんの人が亡くなった。戦争が終わった後も、残留孤児として肉親に会えず、苦しんでいる人がいる。 <終末> ○終戦後、平和に向けての取り組みについて触れ、次の学習の方向を示す。 ・平和祈念像や原爆ドームの保存によって、戦争の悲惨さを忘れず、平和への願いを心にもち続けようと努めている。 まとめ：長く続いた戦争は沖縄での地上戦や広島と長崎への原子爆弾の投下など多くの被害を残して終了した。</p>	<p>(※情報モラルの指導内容)</p> <p>・提示した資料が広島市のホームページの画像を参考にしていることについて話す。また、画像の取り扱い方など、著作権についても触れる。</p>
<p>ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p>	<p>原子爆弾が投下される前と投下された後の町の様子から気づいたことや分かることを交流する場面では、写真のどの部分のことについてかが分かるように、指し示して説明するようにさせる。さらに、投下前と投下後が別々になっている画像と両方が並んでいる画像の3種類を用意し、使い分けるようにする。また、資料を提示する際は広島市のホームページを参考にしたことなど著作権について触れて話すようにする。</p>	
<p>ICTを活用した授業時の児童生徒の反応</p>	<p>大きな画面で資料を示したことで、原子爆弾によって町の様子が一変したことがよくわかるとともに、被害の大きさや悲惨さなど強い印象を与えた。子どもたちの中に驚きの声も上がり、これまで戦争に勝っていた日本がここまでの被害を受けるまでの過程に疑問や興味をもつ子どももいた。</p>	
<p>ICTを活用した授業後の評価（実践の手応え）</p>	<p>導入で利用したことにより、子どもたちに大きな印象を与え、終戦間際の町の様子や人々の暮らしに興味をもつことができた。さらに、電子黒板に大きく表示したことで、見やすく、説明の際も伝わりやすかった。また、投下前と投下後を別々で見比べて気づいたことを交流したり、投下前と投下後を並べて比べることによって変化を説明したり目的に応じて使い分けることで、活発に交流することができた。</p>	
<p>今後の課題</p>	<p>今回の授業では、資料の提示に電子黒板を利用しただけだったが、子どもが発言した部分を丸で囲んだり、キーワードを書き込んだりして子どもの発言を位置づけるとよかった。また、導入のみでなく展開の部分でも特に考えさせたい資料については電子黒板を利用して提示すると考える意欲を継続させることにつながるように感じた。今後は、授業のポイントとなるところでICTを活用していきたい。</p>	

